

SCSK OSS 導入事例

情報基盤構築に OSS を活用 1万人規模での利用を想定した サービス業大手様事例

OSS 活用のポイント

- ・「認証基盤」と「ユーザーインターフェース (UI) 基盤」の構築に OSS を採用
- ・OSS が有する柔軟性と拡張性で、お客さまの要望に柔軟に対応
- ・実績と商用サポートがある OSS を選択し、OSS 採用に対するお客さまの不安を払拭

プロジェクトの背景

情報基盤の構築に OSS を提案

持続的な成長のためには、情報基盤の見直しが不可欠——。サービス業大手の A 社様は、中期経営計画の一環として IT 戦略を構想。SCSK のスタッフがコンサルタントとして IT 戦略策定を支援した。

A 社様は情報基盤を「インフラ層」と「アプリケーション基盤層」「業務アプリケーション層」の 3 層でとらえており、すでにインフラ層の整備は終了していた。IT システム刷新を狙う今回のプロジェクトでは、アプリケーション基盤層の整備に着手。老朽化したアプリケーション群を刷新する計画だ。アプリケーション基盤層は 6 つの基盤で構成されており、SCSK はその上位に位置する「認証基盤」と「ユーザーインターフェース (UI) 基盤」の構築にオープンソースソフトウェア (OSS) を利用した提案を行った【図 1】。

企画スタッフ



SCSK 株式会社
製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部
WEB ソリューション第二課
課長代理
石川 裕喜



SCSK 株式会社
製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部
WEB ソリューション第二課
AP スペシャリスト
大澤 武史



SCSK 株式会社
製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部
WEB ソリューション第二課
IT スペシャリスト
米田 正之

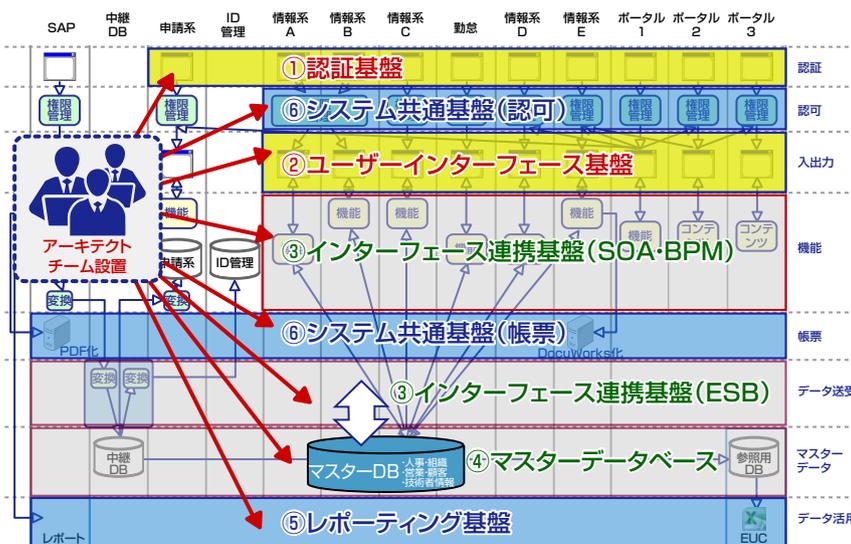


SCSK 株式会社
製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部
WEB ソリューション第二課
IT アーキテクト
渡辺 力



SCSK 株式会社
製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部
部長
北尾 聡

図 1



※UI:ユーザーインターフェース、EUC:エンドユーザーコンピューティング

OSS を提案した4つの理由

「具体的には、OSS の認証基盤『OpenAM(ThemiStruct-WAM)』と、UI 基盤『Liferay』を採用することを勧めました」。プロジェクトリーダーを担当した製造・サービスシステム事業本部の石川裕喜はこう話す。

OSS の採用を勧めた理由は4つ。(1)高度な柔軟性と拡張性、(2)充実した機能性、(3)堅固なセキュリティー機能、(4)低価格だ。「単なるソフトウェアの導入ではなく、基盤から構築するため、お客さまの要求がまだ完全に固まりきれていない状態でのスタートとなりました。そのため、ソフトウェアの柔軟性と拡張性がとても重要でした。また、コストを抑制する必要もあり、この両方の課題を解決できるのが OSS だったので」と UI 基盤に「Liferay」の採用を勧めた大澤武史が説明する。

A 社様の要求がまだ固まっていないため、商用製品が要求にフィットするかどうかは未知数だった。そのため、要求が出るたびに、それに合わせて拡張できる OSS は最適だったというわけだ。

■ OSS 製品の選定経緯

「OpenAM(ThemiStruct-WAM)」と「Liferay」導入のポイント

認証基盤を担当した渡辺 力は、「OpenAM(ThemiStruct-WAM)」を選択した理由について「国内で多数の導入実績があること」、そして「パートナー企業であるオージス総研が保守サポートを提供しており、豊富な導入実績を有していたこと」の2つを挙げる。A 社様のプロジェクトでも、オージス総研とのパートナーシップを生かしたのだった。

また、「Liferay」を選定した経緯について UI 基盤を担当した米田正之は次のように説明する。「『Liferay』には世界的に数多くの導入実績がありました。加えて、充実したポータル機能と堅固なセキュリティー機能を有し、保守サポートを行っている複数のベンダーがある点も採用した理由です」。OSS はソースが公開されているため、拡張性が高いというメリットがあるが、その反面、保守サポートを受けられないというデメリットもある。「『Liferay』の場合、デュアルライセンスを採用しており、完全な OSS 版のほかに、エンタープライズ版という保守サポートが受けられるライセンスも提供されています。A 社様にはエンタープライズ版を勧め、OSS を採用する際に生じる不安を取り除くことに成功しました」(米田)

■ SCSK の強み

「OSS」「商用製品」を含め、最適なソリューションを提供

本プロジェクトを開始する前に、社内の OSS 専門部署である OSS 戦略企画室の協力のもと、検証環境を用意し、A 社様の要望に応えられるかどうか十分な調査と準備を行ったことも、スムーズにプロジェクトを推進できた要因のひとつだ。また、ソフトウェアに障害が発生した際、ソフトウェアベンダーに問い合わせる商用製品と比べ、ソースが開示されている OSS ならば、SCSK のスタッフが自らソースを解析して調査できるといったメリットもある。

製造・サービスシステム事業本部 サービスシステム部 部長の北尾 聡は次のようにプロジェクトを振り返った。「OSS を採用するという SCSK の提案が評価された面はあるが、A 社様のように高い先見性を備えた企業に巡り合えたことは、当社にとっても幸運でしたね。理解のあるお客さまとの出会いで、1 万人規模で利用できる大規模な基盤構築事例ができ、そのノウハウも蓄積されました」

今回のプロジェクトでは、お客さまの課題に対してどんなソリューションが最適かと熟考した上で、OSS が最適だという答えを出した。これは数年前から OSS を利用した情報基盤構築の提案を行い、実績を積み重ねてきた成果でもある。だが、SCSK の強みは OSS だけではない。商用製品と OSS を含めて、顧客の要求に最適なソリューションの提案ができること、それが最大の強みなのだ。

■ お客さまの評価

「OpenAM(ThemiStruct-WAM)」と「Liferay」という2種類の OSS を採用し、認証基盤と UI 基盤の構築を完了した A 社様は、社内情報共有システムを立ち上げた。また、A 社様の社員は日本各地にいるため、社員のコミュニケーションの活性化を狙った社内 SNS の構築も現在検討しているという。当初 OSS で基盤を構築することに少し不安を感じていた A 社様だったが、システムが稼働して以降は「不安はない」と太鼓判を押し、OSS を高く評価してくださっている。「お客さまからの機能追加などの要望に応えようとしても、商用製品ではカスタマイズできないし、カスタマイズできたとしても保証されないことが多い。その点、OSS ならばお客さまの要望に柔軟に対応できるので、喜んでいただけていると思います」(石川)



<製品・サービスに関するお問い合わせ>

SCSK 株式会社 製造・サービスシステム事業本部
サービスシステム部 WEBソリューション第二課
tel : 03-5166-2666
e-mail : liferay-sales@ml.scsk.jp

SCSK SCSK株式会社

SCSK 株式会社
〒135-8110 東京都江東区豊洲 3-2-20 (豊洲フロント)
TEL: 03-5166-2500